

公表:令和 3年 11月 29日

事業所名 放課後等デイサービス みかづき

チェック項目		はい	どちらとも いえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏 まえた改善内容又は改善 目標
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			目的に合わせて部屋を使い分けている。	2部屋に活動を分けることができるため、感染防止対策として、接触者を限定した関わりができています。
	② 職員の配置数は適切であるか	○			加配加算、専門支援加算を算定しており、充足している。	専門職の人財確保を優先事項としており、さらに正職員の雇用形態を多くすることで、安定して最低基準より多い人数での療育を実現しています。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		手すりの設置はないが、床には段差が少ない。	身体障がいだけでなく、すべての子どもたちに使いやすい、ユニバーサルデザインを意識した環境整備を検討していきます。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			バランススコアカードを活用し、会社と個々のスタッフの目標設定と振り返りを実施。	事業所としての目標設定をして、職員は個人に落とし込んだ目標設定と自己評価をしてもらっている。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者の意向は真摯に受け止め、可能な限り業務改善に向けた議論をしている。	アンケートのほか、ご要望やご指摘があった事案について、会議にて共有、改善検討を実施している。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページにおいて公開。	力を入れている取り組みやイベントに関しては随時、ホームページやSNSで公開していく。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者評価の依頼を検討しているが、未実施。	時期と費用を考慮して具体的に計画していきます。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			毎月定期でケースカンファレンスを実施。その他に4ヶ月に一度の虐待防止研修会、外部研修(オンライン含む)を計画的に実施。	施設内研修と施設外研修に分けて、年間の計画を立案。職員の自己研鑽の機会も充実できる体制を検討していく。

適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			子どものニーズに関しては潜在的ニーズにも目を向けた計画作成を心がけている。	初回は何度かの利用を経て、特性や個別課題の抽出を実施。そのうえで、計画に反映させている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			基本情報を得るためのツールを使用している。	アセスメントツールの見直しも定期的に行い、年齢やフェーズに則した運用を検討していく。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			月ごとに変わる活動内容は全体で行い、行事活動に関してはチームをつくり計画立案、実行をしている。	変更や新たな試みが必要な場合には、月末までに翌月のプログラムについて議論をしている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			季節によって変化を加えたり、画一化されないように新たな活動や遊びを出し合っている。	子どもたちが興味を持てるコンテンツと療育の融合を考え、飽きがないよう工夫をしている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○		大枠となるスケジュールを平日と土曜日に分けて設定している。	土曜日は外出や調理などのイベントを設定する曜日としている。平日や長期休業においてはパソコンを使用した療育を中心に展開。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個別、集団の両方の視点から、優先順位とともに計画を立案している。	直接支援に関しては2項目の目標設定をしており、その他家族や地域支援にも着眼して立案している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			朝のミーティング、午後のミーティングの計2回で個々の児童の状況の共有、スケジュール、役割分担を実施。	利用児童に応じてスケジュールや活動内容を臨機応変に対応している。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			毎回振り返りを行い、次回も引き続き支援が必要な場合には、連続性のある関わりになるように留意している。	振り返りを行い、それぞれの反応から得られた情報や、反省点を全体で共有する時間を設けている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			保護者へ伝達するための連絡帳のほか、直接支援の記録、連絡調整の記録を別にして記録をしている。	記録は手書きはなくすべてデータ管理をしている。効率的かつ詳細がわかる記録記載を心がけていく。
⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			必要に応じてケースカンファレンスなども行い、個別に計画の見直しを判断している。	ケースカンファレンスの開催や、困難の増大や顕在化のタイミングで定期だけでなく、タイムリーにモニタリングを行える体制を構築していく。	
⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			社会的な自立も視野に学びやスキル獲得ができるポイントを意識的に取り入れている。	様々な意図を活動に盛り込み、楽しみながら前向きに成長していける環境を考えていく。	

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児発管をはじめ、療育担当者もできる限り参加するように調整をしている。	対面による会議が困難な場合には、オンライン等も使用した柔軟な連携のあり方を模索していく。	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			前月に学校スケジュールを確認して、個別の予定表を保護者にメールでお送りしている。緊急時の連絡先も確認しており、タイムリーに調整ができる体制を心がけている。	保護者に事前提示することによって、不備の確認、連絡をした客観的事実が残ること、必要なことは報告をする意識を持っていただいている。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○			通所中に医療行為が必要なケースはないが、かかりつけ医の把握と連絡調整が行える体制は整えている。	関係機関とはいつでも気軽に連絡を取り合える関係性を構築することを目指していく。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか			○		保育所や幼稚園との情報共有の実績はなし。他のデイサービスとの情報共有、連携実績はあり。	すでに卒園している状況からの利用で連絡を取り合ったケースがないため、成長の記録を追うために保護者・本人の同意を得て、連絡を取り合う機会を増やしていく。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○		現時点で、卒業（18歳以上を含む）を理由にサービスを移行したケースはなし。	小学校から中学校、中学校から高校へ進学した際には情報共有できているが、児童から成人（障がい者総合支援法等）になった際の連携手順を整理していく。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○				基幹相談室から来所してもらい、障がい児通所サービスに期待することや連携のあり方について研修会を実施。	地域支援や他区の相談室の協力も得て、横断的に支援ができる知識と連携に努めていく。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか				○	コロナウイルスの感染防止の観点から、積極的な交流機会を持っていない。	時期を見て、積極的な交流機会を模索していく。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか				○	参加を表明しているが、開催がされていない。	独自の地域連携ができる会合を組織できるよう、周囲の事業所との協力体制を構築していく予定です。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○				児童の状況や保護者のニーズに応じて、面談の機会を設定している。そのうえで、支援計画に反映し方向性を共有している。	送迎は直接処遇のスタッフが行っており、日頃の様子を伝達している。また、活動の様子は毎回連絡帳を用いて報告している。今後は定期的に保護者面談の機会を設定していく予定。
㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○				保護者会の中に、ペアレント・トレーニングを取り入れたり、家庭支援として母子面談の機会を設定している。	今年度は保護者会において、ピアカウンセリングに似た形で日頃の育児や子供との関わりにおける不安の傾聴やアドバイスの機会を設定している。今後はゲームやスマホなどに関する生活リズムの整え方等を視野に機会をつくりたい。	

保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時や報酬改定の際に説明を実施。	契約時のほか、報酬改定による費用の負担などにも随時対応している。また、支援の内容は都度変わるため、個々の状況に合わせて対応している。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			対面、電話、メールなど手段を問わず、気軽に相談してもらえる体制を構築している。	さまざまな相談経路を設けることで、保護者に負担のない方法を選択いただいている。個別面談に関しては、児童が通所していない時間に設定させてもらうことで感染防止対策にも留意している。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			平日の午前中に保護者会を設定し、子どもが登校している時間に実施している。	保護者会は年1回開催することとしており、積極的に父母の会を推し進めるものではないが、同じ曜日に通う児童の保護者同士で繋がったりする様子が見られている。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情解決の窓口を明確にして、報告書をまとめている。	報告書の作成とともに、ご意見をいただいた際にはスピーディに検討と結論を出すことを意識している。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			ホームページの他、SNSも使い、活動の概要や行事報告なども行っている。	ホームページにブログやお知らせを掲載することのほか、重要事項や確認を要する内容については、メールにて各家庭に配信している。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	○			事前に用途を説明し、画像の掲載についてもどこまでを了承していただけるかを確認している。	個別に情報の取り扱いをどの程度許容していただけるかを明確にしている。ただし、意図せずに保護者の方から気になることがあった際にはご相談いただくことができしており、説明と対処をしている。今後も十分に取り扱いに注意をしていく。
	③⑯	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			視覚化した情報の提示やデータとして残る手法等を用いて子ども、保護者とのコミュニケーションの配慮をしている。	子どもに対しては個別スケジュールの提示や、視覚的に指示できるツールを用いている。保護者とは面談などのほか、スケジュール調整などにおいては履歴の残るメールなどを使用することで双方で確認できる手段を用いている。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			コロナウイルスの感染防止の観点から、積極的な交流機会を持っていない。	感染防止対策に留意しながら、事業所がどのような場所であるか知ってもらう機会や、子どもたちの成長を発表できる場を設けることを計画している。

非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			それぞれ策定しており、契約時等に説明している。職員がいつでも見られる場所に保管。	契約時に説明しており、感染症対応に関しては社会情勢や求められることに応じて臨機応変に対応している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			定期的に様々なシチュエーションを想定して避難訓練を実施。	火事、地震などをシチュエーションを変更して、状況に応じた対応ができるように計画している。また、訓練の概念での行動で誤学習してしまわない配慮をしている。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止検討委員会を設立し、4ヶ月に一度開催している。	次年度より設置が義務付けられている虐待防止委員会を今年度より設立し、定期的な研修機会の確保を実施している。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			虐待防止委員会を発足し、基本的には身体拘束をしない方針を表明している。現状で身体拘束が必要となるケースはなし。	原則身体拘束は行わない方針で運営しており、本当に必要な児童をスクリーニングしている。基本的な「切迫性」「非代替性」「一時性」については理解して運営するよう、定期的に研修を実施。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			契約時にアレルギーの有無や医師からの指示がある事柄について確認し、指示に則した対応をしている。	利用前にアレルギーの有無に関しては確認し、おやつ提供における特別な配慮が必要な場合は意思の指示を仰ぐ体制と整えている。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハット事例、インシデント・アクシデントレポートを作成し、保管している。	レポートを作成しスタッフ間で共有できる体制をつくっている。記録庫にレポートを保管。

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。